

新年明けましておめでとうございます。

本年も JBIC の活動や最新の技術動向等について情報発信して行きたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

INDEX

- 欧米における Pre-competitive 共同研究について
 - 研究成果報告会開催のご案内
 - BioPh Japan (バイオフィーマージャパン) 開催のご案内
 - JBIC 会員企業からのご案内：次世代医薬「核酸医薬」創出に向けた Strategy
-

■ 欧米における Pre-competitive 共同研究について

最近、海外のセミナーに参加すると、**Pre-competitive** という言葉が良く聞かれるようになりました。これは、製薬企業が競争で医薬品開発を行う前のフェーズで、共通の研究基盤を共同で開発するものであり、日本語直訳として「前競争的共同研究」と言われる時もあります。

ご存知のように、新薬開発のための研究開発費は年々増大していますが、これに対して認可される新薬は減少しているのが現状です。そこで、研究開発の効率化とコスト削減の施策として、欧米では、2000年代半ばより政府の資金援助の下で多数の企業が参加するコンソーシアム等を設立し、共通の研究基盤を企業の垣根を越えて共同で開発する「**Pre-competitive 共同研究**」が精力的に実施されています。共同研究のテーマとしては、バイオマーカーの開発、疾患モデルの構築、ターゲットバリデーション、ゲノムから臨床までの大規模データ収集など様々です。具体的には下記のような例があります。

(1) The Biomarker Consortium (NIH)

NIH、FDA、米国研究製薬工業協会（PhRMA）等が中心となって2006年に設立。製薬企業はMerk、Pfizer、Sanofi、Eli Lillyなど18社、公的研究機関は16機関が参画し、癌、免疫、炎症、代謝疾患、神経科学に関するバイオマーカーの開発と検証を共同で実施（現在15プロジェクトが実施中）。

(2) Critical Path Initiative (FDA)

FDAは2004年にCritical Path Initiative (Innovation or Stagnation? : Challenge and Opportunity on the Critical Path to New Medical Technology)を提言し、Critical Path Institute(C-Path)を設立して、医薬品開発の効率化を目的とした各種プロジェクト（バイオマーカー、その他のツールによる個別化医療の推進など）を公的研究機関と製薬企業の共同で研究開発を実施。

(3) Innovative Medicines Initiative (EU)

Innovative Medicines Initiative (IMI : 革新的医薬品イニシアティブ)は、欧州委員会と欧州製薬業団体連合会(EFPIA)の官民連携プログラムとして2007年に設立。予算は2008年から2013年までの累計で20億ユーロ(2300億円)。医薬品開発におけるボトルネックを解消するようなPre-competitive共同研究のテーマを公募して実施している（現在23プロジェクトが実施中）。

日本でも産官学連携プロジェクトが多数実施されておりますが、これらは企業とアカデミアとの1対1の共同研究が基本であり、複数の企業が協力して共通の研究基盤を開発するのがPre-competitive共同研究の特徴だと言えます。

日本版Pre-competitive共同研究の実現可能性についてJBIC会員企業のご意見を伺ったところ、実施に対して前向きな企業が多く、合成化合物ライブラリーの共有化、最先端スクリーニングシステムの技術開発などのテーマが実施し易いという意見でした。JBICでは、今後、日本版Pre-competitive共同研究の実現に向けて積極的に活動を進めて行きたいと存じますので、ご指導・ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

日本版Pre-competitive共同研究についてご意見、ご要望等ございましたら、workshop@jbic.or.jp までご連絡ください。

■ 研究成果報告会開催のご案内

JBIC および関連組合が本年度に実施した研究開発事業の研究成果報告会を開催します。どなたでもご参加いただけますが、E-mailによる事前登録が必要です。下記の申込方法に従ってお申し込みください。

座席数に限りがありますので、お早めにお申し込みください。
皆様の多数ご参加をお待ちしております。

日時： 2013年2月12日（火）13：30～17：35
会場： ホテル日航東京（お台場）1階 オリオン
主催： 一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム（JBIC）
エピゲノム技術研究組合
次世代天然物化学技術研究組合
参加費： 無料
定員： 200名

プログラム：

13:30～13:35 開会挨拶

13:35～13:50 来賓挨拶

13:50～15:20

- ◆創薬加速に向けたタンパク質構造解析基盤技術開発（JBIC）
- ◇創薬加速基盤技術開発における電子顕微鏡技術などによる成果
名古屋大学細胞生理学センター 藤吉 好則
- ◇NMRによる創薬加速技術開発の成果
東京大学大学院薬学系研究科 嶋田 一夫
- ◇計算科学による創薬加速技術開発の成果
大阪大学蛋白質研究所 中村 春木

15:20～15:50

- ◆有用天然化合物の安定的な生産技術開発（次世代天然物化学技術研究組合）
- ◇有用天然化合物の安定的な生産技術開発
産業技術総合研究所
バイオメディシナル情報研究センター 新家 一男

15:50～16:10 休憩

16:10～16:50

◆福島医薬品関連産業支援拠点化事業（JBIC）

◇福島医薬品関連産業支援拠点化事業：立ち上げ初年度の進捗
福島県立医科大学 渡辺 慎哉

16:50～17:30

◆後天的ゲノム修飾のメカニズムを活用した創薬基盤技術開発
（エピゲノム技術研究組合）

◇エピゲノムを標的とする創薬
東京大学先端科学技術研究センター 油谷 浩幸

17:30～17:35 閉会挨拶

【申込方法】

下記必要事項①～⑤をメール本文にご記入いただき、件名を「研究成果報告会
申込」として事務局（project2012@jbic.or.jp）まで送信してください。

お申込みいただいた方へは、後日登録完了通知（受付番号）をメールでお送り
します。

- ① 会社名／団体名
- ② 部署／所属
- ③ 参加者氏名（ふりがな）
- ④ 電話番号
- ⑤ メールアドレス

※上記情報は、当該報告会での登録手続き以外には使用いたしません。

【お問い合わせ】

事務局（JBIC 内）

〒135-8073 東京都江東区青海 2-4-32 TIME24 ビル 10 階

TEL : 03-5531-8553 E-mail : project2012@jbic.or.jp

■ BioPh Japan (バイオフア-マジヤパン) 開催のご案内

今後益々注目を浴びるバイオ医薬品業界。その最新技術・サービス・研究成果が一堂に集結する『BioPh Japan (バイオフア-マジヤパン)』。会期中は世界中からバイオ関連企業が出展・来場します。

バイオ医薬品は世界中で急速に成長している分野の1つです。各製薬メーカーにとっては、今後、“バイオテクノロジー”が企業の成長のキーポイントになってきます。BioPh Japan、4展示会と併催することによって、バイオ関連企業はもちろん、製薬・医薬業界から多数ご来場するため、幅広く、効率が良いマーケティングが可能です。また、CPhI、ICSE、P-MEC、BioPhは、UBMが日本以外でも、欧州、インド、中国、南米において毎年開催しているため、世界中からバイオ関連企業の担当者が来場します。是非、これを機会にご出展をご検討ください。

開 | 催 | 概 | 要 |

展示会名 : BioPh Japan 2013

同時開催 : CPhI Japan / ICSE Japan / P-MEC Japan / Pharmatec Japan

会期 : 2013年4月24日(水)・25(木)・26(金) 10:00-17:00

会場 : 東京ビッグサイト 東4&5ホール

主催 : UBM ジャパン株式会社、UBMi BV、化学工業日報社

同時開催 : MEDTEC Japan 2013 (医療機器の設計・製造に特化した専門展示会)

出展社数 : 500社(予定) *併催展との合計

来場者数 : 15,000人(予定) *併催展との合計

BioPH Japan URL : <http://www.cphijapan.jp/info/bioph.html>

CPhI URL : <http://www.cphijapan.jp/>

出展にご興味がある方は、下記のウェブサイトから資料請求をお願いします。

>> <https://ubm-japan.com/cphi/form/request.php><<

▼BioPh Japan 2013 と同時開催の展示会▼

国内最大！製薬メ-カ-と医薬品原料・中間体サプライヤ-とのミ-ティングプレイス

【CPhI Japan 2013 / 国際医薬品原料・中間体展】

URL : <http://www.cphijapan.jp/>

製薬業界に特化した受託サ-ビスの国際イベント

【ICSE Japan 2013 / 製薬業界受託サ-ビスエキスポ】

URL : <http://www.cphijapan.jp/info/icse.html>

原薬・中間体分野に特化した日本唯一の国際テクノロジー展

【P-MEC Japan 2013 / 原薬・中間体 機器/装置展】

URL : <http://www.cphijapan.jp/info/p-mec.html>

ドラッグデリバリー-と医薬品包装技術に焦点を当てた国際会議&展示会

【Pharmatec Japan 2013 / ファーマテックジャパン】

URL : <http://www.cphijapan.jp/info/pharmatec.html>

【BioPh Japan ご出展のお問い合わせ】

CPhI Japan 運営事務局（UBM ジャパン株式会社内）

担当： 仁藤、大内、中村、友利

TEL : 03-5296-1020

FAX : 03-5296-1018

Email : info@cphijapan.com

URL : <https://ubm-japan.com/cphi/form/request.php>

■JBIC 会員企業（日本新薬株式会社）からのご案内

弊社（日本新薬）理事の森所長がオーガナイズしている核酸医薬品のセミナーが開催されますので、ご案内いたします。

【セミナー名】「次世代医薬「核酸医薬」創出に向けた Strategy」

【開催日】 2013年4月26日(金)

【会場】 品川コクヨホール

【詳細】 http://www.dialogue2005.com/nucleic_acid_2013/index.html

【講師】 http://www.dialogue2005.com/nucleic_acid_2013/keynote_speakers.html

【申込先】 ↓↓↓↓↓↓↓↓

http://www.dialogue2005.com/nucleic_acid_2013/registration.html

※2013年2月1日(金)18時迄に参加登録いただきますと参加費無料!!

※また、2013年2月1日(金)18時迄に参加登録いただきました方で 当日ご来場
いただきました方には受付にて要旨集(1冊)無料にて進呈!!

2月1日(金)18時を過ぎてからの参加申込は参加費が有料となりますので予め
ご了承ください。

【Organizer】

森 和哉 氏

日本新薬株式会社東部創薬研究所長

【Keynote Speakers】

「筋ジストロフィーに対する治療法開発のストラテジー」

武田 伸一 先生

独立行政法人国立精神・神経医療研究センター

トランスレーショナル・メディカルセンター長

神経研究所 遺伝子疾患治療研究部長

「核酸医薬品デリバリーのための超分子ナノキャリア設計」

片岡 一則 先生

東京大学 大学院工学系研究科マテリアル工学専攻 教授

東京大学 大学院医学系研究科疾患生命工学センター 臨床医工学 教授

「システム研究による RNA 階層での炎症制御機構の解明」

浅原 弘嗣 先生

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野教授

「分泌型マイクロ RNA の医療応用への可能性と将来展望」

河原 行郎 先生

大阪大学 大学院医学系研究科遺伝子機能制御学

生命科学研究独立アプレンティスプログラムテニュアトラック 准教授

「リン原子修飾核酸医薬の立体制御」

和田 猛 先生

東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻

システム医療科学講座医用機能分子工学分野 准教授

【申込先】

http://www.dialogue2005.com/nucleic_acid_2013/registration.html

【事務局】

次世代医薬「核酸医薬」創出に向けた Strategy 事務局

ダイアログ株式会社

<mailto:forum@dialogue2005.com>

<http://www.dialogue2005.com/>

めるまが1月号より「JBIC 会員企業からのご案内」の項目を新設しました。
JBIC 会員企業で掲載して欲しい記事がございましたら、ご連絡ください。
なお、掲載の可否については JBIC 事務局にて判断させていただきますので予め
ご了承ください。

●JBIC に関するご意見、ご質問、お問い合わせはこちらから。

<https://www.jbic.or.jp/roku/voicebox/input.html>

●配信中止、変更はこちらから。

https://www.jbic.or.jp/roku/m_chushi/input_ch.html

●発行:一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム

JBIC めるまが編集部 <http://www.jbic.or.jp/>

Copyright(c) 2013 JBIC. ALL rights reserved.